銀行強盗

グーフィ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
銀行強盗

【Ｎコード】
Ｎ５２４０Ａ

【作者名】
グーフィ

【あらすじ】
貧乏な男がしょうがなく銀行に強盗にはいる。

（前書き）

やっと十作品目です。
まだまだ未熟ですが、読んでもらえればうれしいです。

太陽の日差しが暑いくらいよく晴れた日
僕は今まで生きてきた中で、いや、この先の人生でも、最も危険なことをしようとしている。
僕は今日、銀行強盗をするのだ。
できることなら、こんなことはしたくない。でも、僕の親はとても貧乏で、僕の学校の学費さえも払えなかった。それでもなんとか中学校を卒業することができた。けれど、さすがに高校まではいくお金がないので、僕はそのまま、工事現場で働くことになった。
そして、一ヶ月まえ、僕はそこをクビになった。中卒の僕をやとってくれるところは、他にはどこにもなく、もう、飢え死にするしかなかったのだ。しょせん世の中金なのだ。
そこで、僕が思いついたことが、銀行強盗。
もし、成功すれば、僕は一生楽して暮らすことができる。
失敗したら、警察に捕まって、刑務所暮らしになるけど、こうでもしないと、さっき言ったように、僕は飢え死にしてしまう。

もうそろそろ、銀行強盗を実行する時間だ。
僕は強盗する予定である銀行の前に立った。ここの銀行は警察署からも遠く、警察を呼ばれても、逃げられる可能性がある。それにここの銀行は小さくて、お客さんも少ない。
銀行強盗をするにはもってこいの場所だ。
よし！銀行強盗開始だ！！！！！
僕は覆面を被り（かぶり）手によくできたモデルガンを持って、銀行に入った。
そして、僕は言った。
「命が欲しかったら急いで金をこの袋の中に入れろ。」
そう言って、僕は店員の人に袋を投げつけた。（心のなかで、謝り

ながら）
店員の人は、少しためらったが、すぐにかばんの中にお金を入れ始めた。
（よし、よし、ここまでは順調だ。）
そして、店員がお金をかばんに入れるやいなや、走って逃げ始めた。
出口のまえで、自動ドアが開くのを待っているとき、横から何者かによって、思い切り殴られた。そして、床に倒れこんだ。
「痛ァーーーーー」
見てみると、そこには恐怖で顔を引きつらせながら、僕をにらみつけている一人の男が立っていた。
僕は慌てて起き上がると、また外に出ようとした。
けれど、またしても勇敢（ゆうかん）な男から妨害にあい、床に倒れこんで、もみ合いをしていた。
・・・・・・・・・・・・・・もう少しだ。もう少しでこの人から放れることができる。・・・・・・・
よし！放れたぞ。
僕はそのまま外に出た。
そして、用意しておいた車に乗り込んだ。
車を発進させたとき、なにかのサイレンが聞こえてきた。この音は、パトカーだ。
あの男の人がいなかったら、こんなことにはならなかったのに。
僕はアクセルを全快にして、パトカーからにげた。
運転は初めてに近かったけど、僕は、軽快にドリフトを使いこなし、パトカーをひきはなしていった。（僕って意外とレーサーの才能あるかも））前方に信号がある。しかも、赤信号だ。僕は意を決してその中に突っ込んだ。
車の波が、すごい速さで横切っていく。これにあたったら、アウトだろう。
ぎりぎりのところで、何とか、そこを通過できた。僕を追ってきたパトカーたちは、信号で止まっている。

これでもう、僕は逃げ切れたも同然だ。
僕は曲がり角をドリフトして曲がった。
「プスッ・・・・・・・・・・・・・プスッ・・・・・・・プスプスッ・・・・・・・・シューーーー」
僕の車は煙(けむり)を上げて止まった。
しまった。エンストしてしまった。やっぱり昔の車を無理して動かすもんじゃないな。
そのうち、またパトカーがやってきた。僕は走ってにげたけど、あいてはやはり警察だけはある。僕はすぐに捕まった。
そして僕は刑務所におくられた。でも、僕はめげなかった。警察署は、テレビやゲームはないけれど、ご飯も食えるし、友達もできた。
まあ、これでいいんじゃないか！！！
僕はそう思う。

（後書き）

どうでしたか？
感想をかいてもらえればうれしいです！！！。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5240a/

銀行強盗

2010年12月10日14時04分発行